

平成30年7月30日(月)

全国への道

全国大会には、いくつもの試練があります。

5月27日のとうほうみんなのスタジアムで、県高体連大会陸上種目女子400Hの決勝がありました。スタートからリードを保って、本校選手がトップでゴールし、安堵と祝福とねぎらいの気持ちを持って、しばらくスタンドの周りを歩き、拠点とする磐城高テント付近に戻り、おめでとうの一言を伝えようとする中、監督の菊池先生が私を捕まえて、〈失格〉の判定が出てしまったので、1万円を支払い再協議を申し入れた旨を告げたのです。ハードルをきちんと体が越えていない、抜き足がハードルの横を通過したとされたというのです。

お父さんとお母さんに付き添われながら、菊池先生の話を知っている彼女は、遠くからでもその泣きはらした顔の様子がわかり、近くによって彼女の顔を見るのもつらく、どうすることもできず、そのまま競技役員がいる本部に行くのがよいか、黙ってことの次第を見定めるのがよいか悩んでいると、30分も経ったでしょうか、携帯のコールがあって菊池先生から再協議が通り、失格が翻ったことを知ると、へなへなとその場に座り込んでしまいました。

まさしく天国と地獄の違いです。1位が失格になり、その後翻って1位に戻ったのです。

菊池先生は、失格の再協議が通らない場合は、1万円は戻らないが、とりあえず抗議すべきだと思い、奥さんから出張の間のこずかいとしてもらってきた1万円で抗議したことを後で知りました。

テントでは、何人もの部員が集まって祝福しておりました。今度は彼女の歓喜の涙にあふれた顔が印象的でした。

その後、彼女は、東北大会で入賞し、全国の切符を手に入れました。毎日、朝早くから仲間達と共にロードを走って練習し、1600リレーの一員としても全国大会に出場します。

仲間達と過ごした3年間と、最後のゴールを切る1分1秒を大切に全国でも活躍してくれることでしょう。

陸上部は、三重県伊勢市で、テニス部は、三重県四日市市で、インターハイに参加するために今週出発します。

全国での戦いは、コンマ以下や数ミリ単位の違いの戦いです。西日本での競技は、暑さという天候との戦いでもありますが、磐城の魂でその苦しさを乗り越えてがんばってくれと心から信じています。